

テーマ 生活の中のユニバーサルデザイン
～いろいろな人の立場に立って考えよう～
みやこ子どもユニバーサルデザイン賞

(学年別・受賞者名五十音順)

て
手をたたけ

足とかがふじゆうな人がのりやすいエスカレーター。いつもはとまっている、しっかりのれたら手びょうしをあいずにうごく。

審査員
コメント

センサーの働きで、動き出すエスカレーターは実現されているが、しっかり乗れたのを確認してから動くわけではない。みんなに優しい社会について考えさせられました。

てらうち
寺内

ゆめと
夢人

藤城小・2年(藤城児童館)



じゆうにうごくえんぴつ

えんぴつがじゆうにうごいて口でかきたいものを言ったらうごいてくれます。口がふじゆうな人は、のうが見えるぼうしをかぶり、テレビにでてくる絵を見て書きます。

審査員
コメント

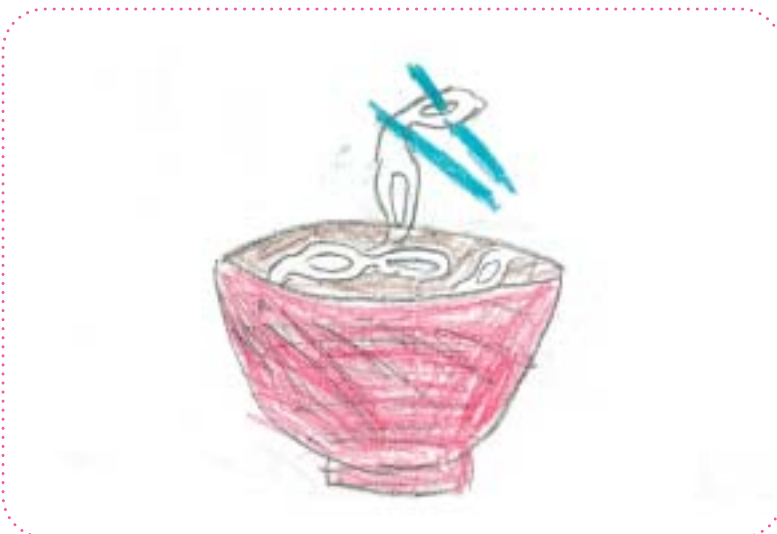
音声で書いた文字は、ワープロや手書きとは異なる味わいを感じられるかも。また脳で考えたことが、ディスプレイ表示される発想は、小学生には大胆で誰にでも利用できそう。

のや
野矢

ゆうま
祐真

向島南小・3年(向島南児童館)





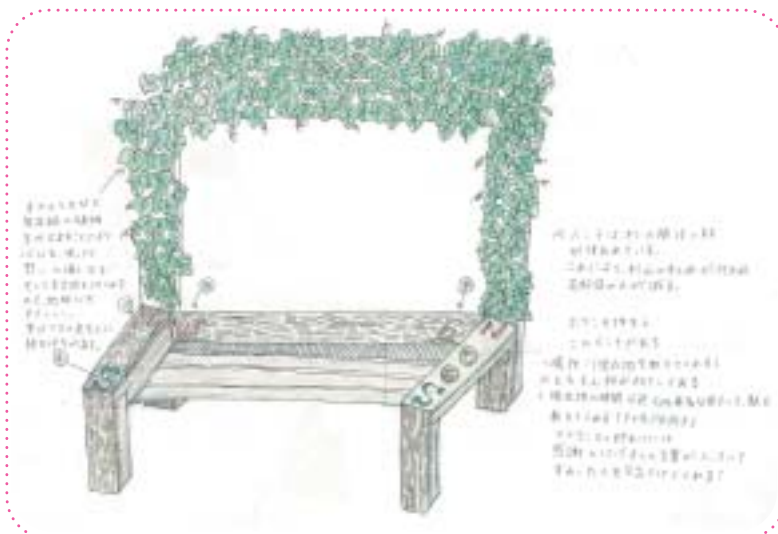
まち あん ない
町の案内ベンチ

かわ むら ゆう き
川村 優貴 久世中・1年

ベンチが、現在地や近くの有名な見どころ、駅などを教えてくれます。またアナウンスの終わりには、感謝と励ましの言葉で元気づけてくれます。

審査員コメント

ひと休みしながら知りたいことを教えてくれる見た目にも涼しげなこんなベンチがあったら素敵かなと思いました。案内板ではなくベンチである事が素晴らしい。



よ
読みあげメジャー

は せ がわ ま こ
長谷川 眞子 久世中・1年

目の不自由な人や文字が読みとりにくい人でも、自由にメジャーで長さを測れるよう考えたものです。

審査員コメント

「測る」と言うことに注目した点、0の位置のひっかけや持ちやすさの凹み、ボタンの位置まで考えた人にやさしいデザインだと思います。



くし
串keeper!!

おか い
岡井 みづほ 春日丘中・3年

串が危ないのは、子どもや高齢者でなくても同じです。そのため、その部分がなくなれば、安全なのになと考えました。

審査員コメント

串の危険性や取りはずしづらさという日常生活の中での不具合や危険性を克服しようとする姿勢に共感しました。

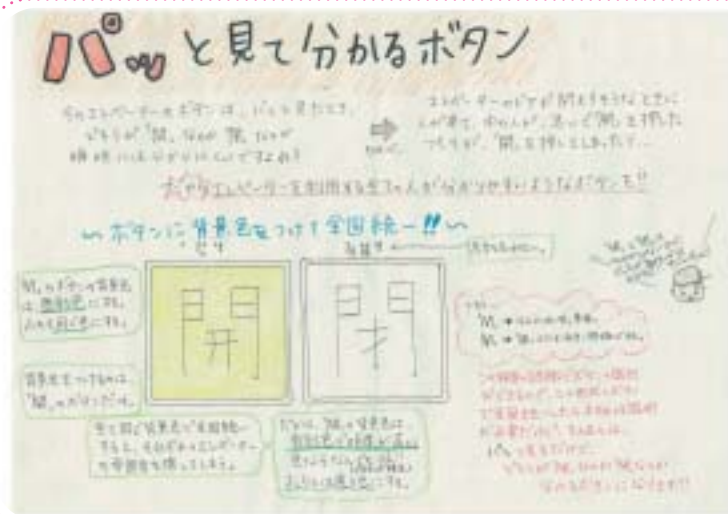


み わ こ ばやし あか り パッと見て分かるボタン 小林 明理 春日丘中・3年

間違っ「開」を押しても困らないけど、「閉」を押してしまうと困るから、「開」の方が目立つように明るい色をつけました。

審査員コメント

なるほど色を変えるとは、私自身時々エレベーターで咄嗟に「開」と「閉」が判別できず慌てることがあるだけに、これはまさに目から鱗でした。



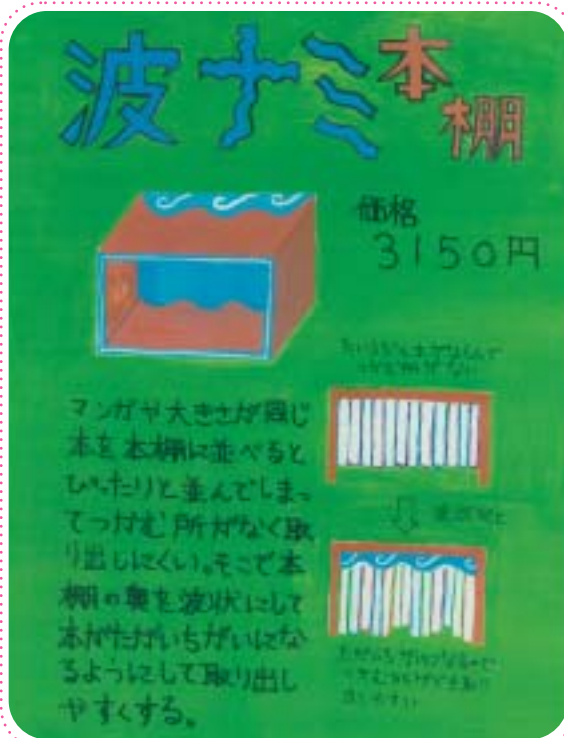
なみ ほん だな 波ナ三本棚

まつ お たく み
松尾 拓実 蜂ヶ岡中・3年

本棚の奥を波状にして、本がたがいちがいになるようにして取り出しやすくします。

審査員コメント

図書館等で採用したら、使い易そうなユニークな提案で面白味がある。現実的で実用的な発想であり、従来の本棚でも、少しの細工でできそうなアイデアです。



審査委員長の所感

子ども部門には数多くの応募がありました。特徴的なのは学校や児童館単位での積極的な応募が目立ったことで、先生方が指導された成果が反映され、子どもたちの「学び」が感じられる作品が数多く見られました。

こども部門では、実体験に基づいた具体的で分かり易い提案が多いのですが、高学年及び中学生の提案では、現実の商品提案の様なアイデアが多くなります。確かにユニバーサルデザイン対応商品等が情報として溢れており、商品提案という手法が取り組み易いのですが、ともすれば単なる「便利グッズ」となって「幅広い人々への対応」という視点が希薄になる恐れがある点に注意が必要だと感じました。

また、今回の審査では、誰でもできる簡単な動作で利用できるという発想がユニバーサルデザインの趣旨にかなっているが、一方で、この動作が出来ない方への配慮という点で問題がないのかといったことが審査員の間で話題となりましたが、一面的ではあっても現状のものや場所について、利用できずに困っている人たちがいることを的確に捉え、その対策を考えたことを評価することとしました。